

## 図書館教育中国大会の授業

先月、中国地区学校図書館研究大会米子大会に参加しました。これは2年に1回開催される大会で、本校は2年後の平成31年11月に授業公開をすることになっています。

授業公開校は、米子市立住吉小学校は児童数670人あまり、1学年3～4学級の中規模校です。

中国大会の指定は、本校と同じく開催3年前に話が決まり、2年前から準備を始め、発表年度を迎えたそうです。

校長は本年度新しく赴任したそうですが、前年度から準備が始まっていたので、本年度はその継続で乗り切れたと話しておられました。

鳥取大会は、授業提供小学校は1校だけだったので、小学校参加者300人程度が全員集まられていましたが、山口大会は2校なので、本校来校者はその半分になります。参加者は、県外から50人程度、残りは県内参加者でした。

本号では、大会の様子について、概要をお知らせしておきます。

・当日は、授業学年（各学年1学級）以外は給食後下校。

### ○開会行事(体育館)

学校からは、校長挨拶（5分）、研究概要説明（研修主任10分・司書教諭10分）。



### ○授業：各教室で実施。

・特別支援(生活単元)

各自が好きな本を紹介しあう。後半は、図書司書が本の読み聞かせ。司書は手作りの仕掛けで楽しませる。



### ↑1年(国語:いろいろなふね)

教科書で学んだことを用いて、自分の選んだ乗り物の「つくり」について図鑑から読み取って、説明カードを作成する。



### ↑2年(国語:ビーバーの大工事)

授業前半で、教科書本文の「ビーバーの巣作りのすごさとその理由」を読み取り、後半で、自分が選んだ動物の同様のすごさを図鑑の中から読み取る。



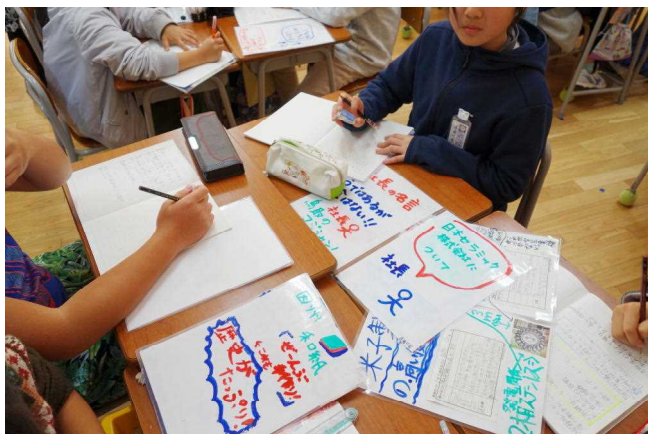
### ↑3年(総合:米子弁で語るふるさとの民話)

図書司書や学校司書と連携して調べた地元の民話を、ゲストティーチャーを招いて米子弁に変える。（※ちなみに、この先生はなんと中村敦子先生の教え子だそうです。）



↑ 4年（社会：わたしたちの県）

県内の特色ある地域の情報カードをグループ内で交流しあい、模造紙にまとめる。



↑ 5年（社会：工業生産を支える）

自分たちで調べた県内の伝統工芸や技術力に優れた中小工場の働きについて交流し合い、共通点をまとめる。

・ 6年（国語：町の幸福論）

教材文で読み取った筆者の主張をもとに、地元地域の未来について、課題と解決策を付箋・模造紙を用いて話し合う。

### ○研究協議

- ・ 司書教諭・各学年代表による図書教育の説明（5分）
- ・ 質疑応答（10分）
- ・ その後は県教委等の指導助言

### ○授業提供校（住吉小）の取組の特徴

- ・ 米子市の司書教諭は週5時間（体育・音楽等に専科）、司書として活動し、図書館を使った各学年の授業に参画している。
- ・ 司書教諭と図書司書が、各学年と連携し、必要な図書を市立・県立図書館から常に借り

て活用している。図書では揃わないインターネット情報を印刷して配布することもある。授業に深く関わっている。

- ・ 住吉小は現在、情報活用能力の育成を目指して図書館を活用する取組を進めている。図書館を情報センターとして捉えている。
- ・ 得られた情報は必ず情報カード（図書館に常備）に記入し、ファイルに蓄積させている。1年生から繰り返すことで要約する力・メモする力がついてくる。
- ・ 学校図書館活用教育の年間計画が素晴らしい。どの単元の学習で図書館をどう活用するかがまとめられている。
- ・ 学習で作成した成果物を図書館で保存し、次年度の学習の際に提供している、学習センターとしての機能。
- ・ 図書館は特に特徴的でもない。こじんまりとした図書館。ただ、子どもに読ませたい図書は揃っていて素晴らしいと、本県の図書教育に熱心なある教頭は話していた。
- ・ 図書館廊下には、図書館を活用して作成した各学年の学習成果物が展示されていた。



↓ 全体会場（設営は非常に簡素）

いす、机、受付、荷物預かりコーナー、靴置きシート、看板

